

エコ発する事業発表会兼評価委員会 議事録

日時：平成 26 年 5 月 22 日（木）発表会兼評価委員会 **公開** 13:30～16:20

委員による評価 **非公開** 17:00～18:30

場所：発表会兼評価委員会 あいれふ講堂：福岡市健康づくりサポートセンター 10F

委員による評価 福岡市健康づくりサポートセンター 7F 第2研修室

参加者：エコ発する事業評価委員会委員 6 名（松藤会長，糸山委員，久留委員，木村委員，松岡委員，
薛委員）

発表団体	12 団体	24 名
その他団体		1 名
一般		2 名
市職員		14 名
事務局		5 名
		計 46 名

<継続・新規申請団体の評価について>

- ①ウエットランドフォーラム **採択可**
- ②低炭素社会推進福岡協議会 **採択可**
- ③NPO法人 ハートスタッション **条件付きで採択可**
- ④福岡友の会 **採択可**
- ⑤Links 実行委員会 **採択不可**
- ⑥特定非営利活動法人 循環生活研究所 **採択可**
- ⑦特定非営利活動法人 はかた夢松原の会 **採択可**
- ⑧特定非営利活動法人 緑のキャラバン隊 **採択可**

<事業終了団体の評価>

- ①NPO法人 ふくおか湿地保全研究所 **補助金を十分に有効活用した団体といえる**
- ②サイクルライフ FUKUOKA **補助金は有効活用されているが、もう一歩**
- ③NPO法人 環境緑化を考える会 **補助金を十分に有効活用した団体といえる**
- ④福岡市水源林ボランティアの会 **補助金は有効活用されているが、もう一歩**

◆各団体事業報告・事業計画発表

(終了・新規申請団体発表各 5 分，継続申請団体発表各 10 分，委員との質疑応答 5 分)

パワーポイントを使用し説明。※Links は PDF。

(以下，質疑応答内容)

1. NPO 法人 ふくおか湿地保全研究会

Q：地域の人たちに知っていただいて，地域の人たちに愛情をもって自然保護をしてもらっているということが非常に印象に残った。非常によい活動なので補助事業は終了するが是非続けていただきたい。

A：ありがとうございます。

Q：団体はどのような年齢構成か？団体の活動を次世代へどう受け継いでいくのかをお聞かせ願いたい。

A：九州大学の学生などとイベントを通じて繋がり，そこでの各々の熱意があれば活動へ参加となることもある。若者を巻き込むのはなかなか難しい。今後の課題です。

2. サイクルライフFUKUOKA

Q：継続して申請しない理由は何か。

A：スタッフが本業の仕事関係で辞めたりなど、人的問題で事業がなかなか進まなかったのも、体制的に再度組み直すために、一旦補助申請は辞退した。

Q：自転車対策は市や警察とも深く関わっていかなくてはならない問題であるが、そこの情報交換や連携はどうなっているのか。

A：1年目はつくし学園と事業を実施する際に、早良警察署に協力いただき、2年目のイベントでは警察だけではなくJAFや東福岡自動車学校も巻き込んで行え、今後も連携してやっていける繋がりには出来た。

3. NPO 法人 環境緑化を考える会

Q：学校を巻き込んでの活動をこれだけやってこられて大変だったと思う。25年度並みには出来なくても是非この取り組みは続けていただきたい。

A：ありがとうございます。

Q：実績報告の活動回数や参加人数を見ると地道に活動されているのがよく分かる。

ただの花植えではなく、環境UPに取り組んでこられたということだが、講習会などで広い意味での環境教育は受講者に伝わったのかお聞かせ願いたい。

A：エコ花教室をする際に、空のペットボトルや家にあるものなど活用して季節毎のアレンジを加えギフト化したりもした。また、環境UPを実施した学校でアンケートを取ったが、子ども達からこの事業を通して環境について学んだとの回答を沢山いただいた。

4. 福岡市水源林ボランティアの会

Q：“パッケン”がピートモス等と比べて優れている点は何か。

A：ピートモスは油分があり分解し辛いですが、竹はイネ科で分解しやすい。

Q：市民への拡がりや今後の展開についてはどう考えているか。

A：ボランティアはやはりその内容が好きでなければ本気にならないというところがあるので、今後は好きなもの同士でどうつながっていくかが重要だと思う。また、広報ツールとして若者向けに動画というわかりやすい形で発信していくことを始めた。

5. ウェットランドフォーラム

Q：樋井川の護岸改修でもそこに住む生物の話が出ていたが、他の活動団体と共働していくことや、干潟以外で活動する考えがあるのか。

A：機会があれば連携も考えていきたいが、活動そのものは干潟に特化したものを考えている。

Q：動物もののカレンダーは人気だと聞く。将来の活動資金源として考えてみてはどうか。

A：そこまで考えたことはなかったが、参考とさせていただく。

Q：ガイドブックを利用した観察会の市民参加見込みは？また広報ツールはどのように考えているのか。

A：人数が多いと監督・補佐が難しくなり、観察会が上手くいかない恐れがあるため20名程度としている。広報ツールについてはチラシとインターネットを活用している。

6. 低炭素社会推進福岡協議会

Q：活動を評価表としてまとめておられ、PDCAもうまく回っていて素晴らしい。補助金がなくなった後はどうされるのか。

A：活動成果をまとめるにあたって、補助金がなくても可能な活動かどうかについても評価していくつもりである。

7. NPO 法人 ハートスターション

Q：過去エコ発する事業で竹林保全マップを作成する事業があったが、そういった団体と協力体制をとってみてはどうか。

A：日程と活動場所の調整が難しい状態ではあるが、前向きに考えたい。

Q：竹チップはどのように活用しているのか。

A：ブルーベリー畑へ散布している。土の性質によって使えない場合もあるが、他の団体にも分けられるように考えている。

8. 福岡友の会

Q：地道な活動に敬服する。せっかくなので活動のまとめを作成されてはどうか。

A：活動が多岐にわたっているため、まとめられずにいるのが現状。

Q：福岡友の会のメンバーの方へ人材育成の講師を頼むことは可能か。

A：既にいくつか依頼がきている。

Q：グローバルな知識でもって身近なところから行動を起こしているところが素晴らしい。

A：ありがとうございます。

9. Links 実行委員会

Q：若者の力・繋がりに期待をしている。環境啓発U-30事業とも共働して、若者の多いまちといわれる福岡で、若い世代の環境活動の輪を拡げていくことに貢献してほしい。

A：ありがとうございます。

Q：2か月に1回イベントを行っているようだが、参加者の入れ替わりはあるのか。

A：参加するアーティストに興味を持っている方が参加されるので、その都度ほぼ違う人が参加している。

Q：もう少し地球環境にかかわる取り組みがあればいいと思う。100万円という高額な補助なので、収支計画をしっかりと立てて欲しい。例えばイベント参加費は収入へ繰り入れないのか。

A：事務局にも説明しているが、参加費収入は自己資金の中に含まれている。

10. 特定非営利活動法人 循環生活研究所

Q：マニュアルは初級編・中級編など熟練度別に作成したほうがよいと思う。

A：2年間の事業を考えているが、その際には3年目の継続も考えて検討したい。

Q：マニュアルはどこで配布するのか。またマニュアルは環境ボランティアに特化したものか。

A：大学などで初めてボランティアに参加する学生対象にプレゼンする際の資料として使いたい。重点は環境であるが他のボランティア活動にも応用できる内容も盛り込みたい。

Q：ボランティア育成という数値目標の立てにくい課題ではあるが、PDCAのためにも目標を立ててみて、その後の事業効果検証の役に立ててほしい。

A：アドバイスありがとうございます。

1 1. 特定非営利活動法人 はかた夢松原の会

Q：活動は引き続き国体道路で行うのか、他の道路でも行っていくのか。放置自転車は区が担当しているのではないか。

A：国体道路をメインに活動していくが、先々は博多駅周辺まで進めていきたい。放置自転車対策については行政と協力して実施していきたい。

1 2. 特定非営利活動法人 緑のキャラバン隊

Q：平成18年から地道に幅広く活動されているが、落葉堆肥化は以前からされていた事業なのか。

A：土そのものには今まで目を向けていなかったもので、大学の先生に協力を仰いでいる。

Q：大濠公園の落葉は堆肥化を行っていると聞いたことがある。堆肥化については環境面だけではなく技術的にも有用なことであるので是非頑張ってください。

A：ありがとうございます。

◆委員による評価 (17:00~18:30)

団体毎の評価の前に、評価方法について説明し、発表会兼評価委員会の際に各委員により記入いただいた評価シートをもとに議論いただくことを確認。

(以下、福岡市情報公開条例第7条第2号及び第4号により非公開)